



2023.10.24

# AtomOS 11.02.01 ファームウェアリリースノート

## Shogun Connect

AtomOS 11 は、2018 年以来初めてとなるオペレーティングシステムの大規模な再設計であり、ShogunConnect で無料アップグレード可能です。

AtomOS 10 から AtomOS 11 へのアップグレードは一方な設定のため、元に戻すことはできません。

将来のアップグレードやバグフィックスは全て AtomOS11 となり、AtomOS 10 は新しいアップデートがありませんのでご注意ください。

## インストール方法

ファームウェアのアップデートを開始する前に、Shogun Connect を主電源に接続することをお勧めします。

1. フォーマット済みの SSD をドッキングステーションに挿入してください。
2. ダウンロードしたファイルを解凍し、ATOMSGC.FW ファイルを SSD のルートにコピーしてください。
3. SSD をドッキングステーションから抜いてください。(OS のガイドラインに従います)
4. Shogun Connect に SSD を挿し込んでください。
5. Shogun Connect の電源を入れると、ファームウェアのアップデートが自動的に開始されます。

**注意:** Shogun Connect の電源が入っている場合、新しいファームウェアを含むドライブを挿入すると、ファームウェアのアップデートを実行するよう促されます。

6. アップデートが完了すると、Shogun Connect の電源が切れます。
7. Shogun Connect の電源を入れ直すと、デバイスは自動的に更新プロセスを完了します。
8. ファームウェアのアップデートが正常に完了したかどうかを確認するには、メインメニューに移動し、情報タブにスクロールします。

## 新機能と変更点

### C2C ワークフローの 10-bit 対応

Frame.io、Atomos Edit、Sony Ci Media へ C2C アップロードの改善。

ユーザーは、Atomos Cloud Studio を介して、C2C クリップの bit 深度を調整できるようになりました。

以前は、C2C クリップを 8-bit でのみアップロードしていましたが、デュアル (Hero + Proxy) とシングル (Hero のみ) の両方のモードで、10-bit クリップをアップロードできるようになりました。

**注意:** Atomos Cloud Studio の設定において、"Quality "が "Custom "に設定されている場合に限り、Edit Destination "ダイアログに "Bit depth "の選択が可能となります。

以下のオプションの組み合わせが、Atomos Cloud Studio で設定可能です。

・720p

- ・B フレーム : On または Off
- ・Bit 深度 : 8-bit & 10-bit
- ・クロマサブサンプリング : 4:2:2

・1080p

- ・B フレーム : On または Off
- ・Bit 深度 : 8-bit & 10-bit
- ・クロマサブサンプリング : 4:2:2

・4K

- ・B フレーム : Off
- ・Bit 深度 : 8-bit & 10-bit
- ・クロマサブサンプリング : 4:2:2

・4K

- ・B フレーム : On
- ・Bit 深度 : 8-bit
- ・クロマサブサンプリング : 4:2:0

**注意:** ビット深度を設定するカスタム品質設定にアクセスするには、Atomos Cloud Studio Premium サブスクリプションが必要です。

## 不具合の修正とマイナーチェンジ

11.02.01 には、C2C ワークフローの改善に加え、不具合の修正と目立たない変更も含まれています。

- ・入力信号のフレームレートを変更した後に、SDI 出力信号のプロパティが正しくレポートされない問題を解決しました。
- ・メタデータのクロップオプションがデバイスの記録メニューに表示されない問題を解決しました。
- ・SDI File Naming が有効で、録画ファイル名が 50 文字を超える場合に、C2C ファイルがアップロードされない問題を解決しました。
- ・AtomOS 11 起動後のウェルカムツアーダイアログを削除しました。

## 今後のリリースで解決される既知の制限事項

---

- 録画モードと再生モードを切り替えた際、Wi-Fi およびイーサネット接続の再確立に最大 10 秒かかる場合があります。システムが自動的にネットワークに再接続するまで時間をおいてください。
- 再起動後、デバイスがインターネットに接続されるのを待ってから C2C の録画を開始してください(最大 10 秒かかる場合があります)。接続が確立するのを待たないと、C2C の保存先フォルダに重複してアップロードされてしまう可能性があります。
- RAW+プロキシ C2C モードで、Sony FX9 からの 2Kp59.94 RAW フィードが供給されている場合、録画は無効になります。
- RemoteView モードでは、フレームレートを途中で切り替えると UI がフリーズすることがあります。RemoteView の使用中は、フレームレートの変更を行わないことをお勧めします。

- 録画フォーマットとして H.265 を選択した状態で DCI 4K 解像度に切り替えると、RemoteView が期待通りに動作しない場合があります。RemoteView モードで記録形式として H.265 を選択する場合は、16:9 に固定することをお勧めします。
- 720p を HDMI/SDI 経由で他の機器に出力する場合、受信側で画像のアーチファクトが発生する可能性があります。
- 720p50 および 720p59.94 で記録された H.265 クリップを再生すると、ズームおよび波形モニター機能が無効になります。
- 波形モニターツールは、8Kp30 及び 6Kp60 の RAW 入力では使用できません。
- 記録フォーマットに H.265 を選択した場合、Network Record Control は使用できません。
- YCC SDI 入力で ProRes RAW 記録モードを起動した場合、モニタリング画像が正しくない場合があります。ProRes RAW モードで Shogun Connect に RAW 信号を出力しながらのモニタリングとレコーディングは期待通りに動作します。
- HDMI Compatibility モードを選択したまま異なるカメラに切り替える場合、新しいカメラを接続する前に本体を再起動してください。
- 1 つの Shogun Connect に 2 つの AtomRemote アプリを接続すると、パフォーマンスが低下する場合があります。1 つのデバイスにつき、1 つの AtomRemote アプリのみをペアリングしてください。
- 3/4 以上のオーディオ入力を有効にして H.265 コーデックを録画すると、オーディオトラックが録画されない可能性があります。
- 4Kp60 入力を p59.94 出力の Live Show に接続すると、送信に失敗します。入力信号を p59.94 に設定すると、ストリーミングできるようになります。
- C2C へのアップロードは、デュアルレコードコーデックモードでは、矢印がアップロード中を示しているにもかかわらず、ファイルのキューで停止することがあります。キューをアップロードできるようにするには、Connect ページに移動し、Connect モードを無効にしてから有効にするか、デバイスを再起動してアップロードを再開します。
- スケジュールされた再生または録画がアクティブになったら、デバイスの日付または時刻を変更しないでください。
- SDI ソースモードで DETECT が Auto(カメラファイル名/トリガー/タイムコードの一致)に設定されている場合、カメラからのタイムコード入力を認識できないことがあります。この場合、入力ページで DETECT を OFF に設定し、タイムコードページでソースを Rec Run に設定し、入力ページで DETECT を Auto に設定すると、ソースが正しく表示されます。
- C2C を有効にした状態で、H.265 ビデオを再生するために選択すると、選択したファイルが黒い画面しか表示されずに開始できないことがあります。メニューに戻り、メニューを閉じると再生が始まります。
- デュアルレコードを有効にして DCI アスペクト比で撮影すると、プロキシファイルは 16:9 のアスペクト比にトリミングされます。